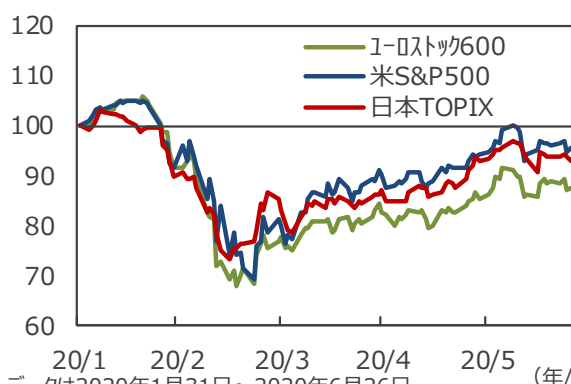


今日のトピック コロナショックの不況下での株高 感染拡大で景気回復が遅れるリスクには注意が必要

ポイント1 株価は急落前水準をほぼ回復 政策と経済再開を好感

- 新型コロナの感染拡大により急落した世界の株式市場は、米連邦準備制度理事会（FRB）を中心とした中央銀行の異例の緩和政策や大規模な財政政策を受けて、3月下旬以降回復基調にあります。また、5月以降は、米欧を中心に緩やかながら行動規制の緩和と経済の再開が始まり、経済指標では景気回復を示すものが出ていることも好材料視されています。これらにより、足元の日米欧の株価は急落前（1月31日時点）の水準から9割程度に戻っています。

(ポイント) 【日米欧の株価推移】

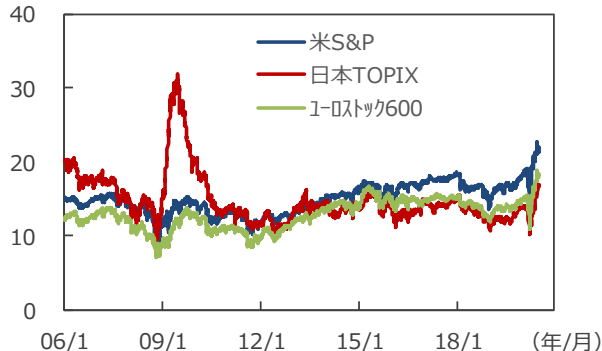


(注) データは2020年1月31日～2020年6月26日。
2020年1月31日 = 100。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 将来への期待織り込みが進む バリュエーションは割高水準に

- 国際通貨基金（IMF）は今年の世界の経済成長率を▲4.9%と、大恐慌以来の景気悪化となると見込んでいます。一方、来年度は+5.4%成長を予想しています。
- 現在の株価の上昇は、積極的な政策対応と今後の景気回復や業績改善への期待を織り込んでいると考えられます。12カ月先予想株価収益率（PER）をみると、日米欧ともに割高水準となっており、期待先行での相場上昇を裏付けていると考えられます。

(倍) 【予想PERの推移】



(注) データは2006年1月2日～2020年6月26日。
予想PERは12カ月先。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 感染拡大で景気回復が遅れるリスクには注意が必要

- 実体経済の回復初期における「不況下の株高」は過去に何度も起こった現象です。ただし、今回はコロナの感染状況により回復ペースや水準の不確実性が極めて高いことには注意が必要です。
- 一進一退ながらも景気回復や業績改善が進めば、株式市場の現在の水準は妥当と考えることが出来ます。しかし、新型コロナの感染第2波により米欧で大規模なロックダウンが再度実施されるリスクには注意が必要とみられます。

ここも
チェック!

2020年6月26日 米国経済停滞懸念から弱含む日本株式市場
2020年6月25日 IMF『世界経済見通し』は大幅下方修正

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。